

## FLAT DISPLAY

Patent Number: JP11297245  
Publication date: 1999-10-29  
Inventor(s): KAMIMURA SASHIRO;; NAGAMEGURI TAKESHI;; YOTANI JUNKO  
Applicant(s): ISE ELECTRONICS CORP  
Requested Patent: ☐ JP11297245  
Application Number: JP19980099227 19980410  
Priority Number(s):  
IPC Classification: H01J31/12; H01J29/04  
EC Classification:  
Equivalents:

---

### Abstract

---

PROBLEM TO BE SOLVED: To simply manufacture a flat display having a display area larger than that of a conventional one.

SOLUTION: Electron releasing parts 105 having a specified interval are formed on the areas of an insulating film 103 nipped between board side ribs 104 and each of the electron releasing parts 105 is connected to one of wiring of an electrode wiring layer 102 through a through hole formed in an insulating film 103. The electron releasing parts 105 are formed from a carbon nano-tube.

---

Data supplied from the **esp@cenet** database - I2

(51)Int.Cl.<sup>8</sup>

H 0 1 J 31/12

29/04

識別記号

F I

H 0 1 J 31/12

29/04

C

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21)出願番号

特願平10-99227

(22)出願日

平成10年(1998)4月10日

(71)出願人 000117940

伊勢電子工業株式会社

三重県伊勢市上野町字和田700番地

(72)発明者 上村 佐四郎

三重県伊勢市上野町字和田700番地 伊勢  
電子工業株式会社内

(72)発明者 長廻 武志

三重県伊勢市上野町字和田700番地 伊勢  
電子工業株式会社内

(72)発明者 余谷 純子

三重県伊勢市上野町字和田700番地 伊勢  
電子工業株式会社内

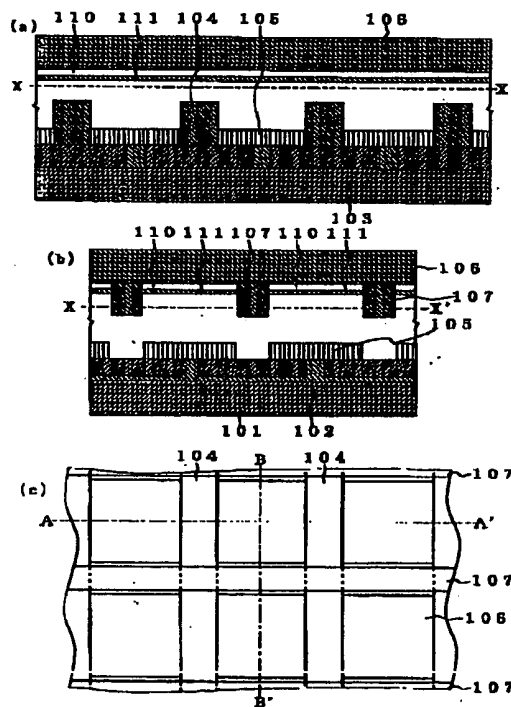
(74)代理人 弁理士 山川 政樹

(54)【発明の名称】 平面ディスプレイ

(57)【要約】

【課題】 より大きな表示領域の平面ディスプレイを容易に作製できるようにすることを目的とする。

【解決手段】 基板側リブ104ではさまれた絶縁膜103上に、所定の間隔を開けて電子放出部105が形成され、この電子放出部105は、絶縁膜103に形成されたスルーホールを介して電極配線層102のいずれかの配線に接続している。そして、電子放出部105は、カーボンナノチューブから構成されている。



#### 【特許請求の範囲】

【請求項1】 少なくとも一部が透光性を有する表示面およびその表示面に対向配置する基板を有して内部が真空排気された外周器と、

前記表示面と前記基板とを所定の間隔に離間するために、前記表示面の内側に所定の間隔で複数配置された前面リブ、および、前記前面リブと垂直に前記基板側に所定の間隔で複数配置された基板側リブと、

前記表示面の前記前面リブにはさまれた領域に形成されて所定の電位が印加される蛍光体からなる発光部と、

前記基板の基板側リブにはさまれた領域に所定の間隔を開けて複数配置されて所定の電位が印加される電子放出部とから構成され、

前記電子放出部は、

円筒状のグラファイトの層からなるカーボンナノチューブから構成されていることを特徴とする平面ディスプレイ。

【請求項2】 請求項1記載の平面ディスプレイにおいて、

前記電子放出部は前記カーボンナノチューブの集合体からなる柱状グラファイトから構成されていることを特徴とする平面ディスプレイ。

#### 【発明の詳細な説明】

##### 【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、2次元マトリクス状に配置した電子源から放出した電子を、蛍光体に衝突させて発光させる平面ディスプレイに関する。

##### 【0002】

【従来の技術】FED (Field Emission Display) は、2次元マトリクス状に配置した電子源から放出された電子を、対向電極に形成された蛍光体からなる発光部に衝突させて発光させるフラットパネル (平面) ディスプレイである。このFEDは、サブミクロン～ミクロンサイズの微小真空管、すなわち、電界放出型冷陰極電子源を用いた真空マイクロデバイスの一種である。基本構成は、従来の真空管と同じ3極管であるが、熱陰極を用いず、先鋭な陰極 (エミッタ) に高電界を集中して量子力学的なトンネル効果により電子を引き出すようにしている。

【0003】この引き出した電子を、陽極/陰極間の電圧で加速し、陽極に形成した蛍光体膜に衝突・励起させて発光させる。陰極線による蛍光体の励起発光という点では、ブラウン管と同じ原理である。図3の断面図に、一般的なFEDの構成を示す。このFEDは、真空排気された前面ガラス基板301と基板302との間に、電子放出部と蛍光体からなる発光部303が形成されている。また、前面ガラス基板301の内部表面には、ITOなどの透明導電材料からなる陽極304が形成され、その上に発光部303が形成されている。

【0004】また、これと対向配置する基板302上に

は、陰極305が形成され、この上に、先端が尖った形状 (スピント型) のミクロンサイズ (1～2  $\mu\text{m}$ ) のエミッタ306が絶縁層307に区画されて形成されている。そして、絶縁層307上には、エミッタ306から電子を引き出すためのゲート電極308が形成され、これらで、微小な電子放出部を構成している。そして、その電子放出部は、例えば、赤・青・緑で構成する1つの画素に対して、約200個程度集積するようにしている。

##### 【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来のFEDでは、表示領域全域にわたって、多数の微細なエミッタを均一に形成しなくてはならないため、非常に作製し難いという問題があった。例えば、対角長が10インチ程度のディスプレイの場合、その画素数は800×600程度になる。従って、従来のFEDでは、その表示領域全域にわたって、200×800×600=960000個もの微細なエミッタを均一に形成しなくてはならない。そして、ディスプレイが大きくなればなるほど、この数を増やさなくてはならず、従来のスピント型のエミッタを用いたFEDは、大画面化が困難であるという問題があった。

【0006】この発明は、以上のような問題点を解消するためになされたものであり、より大きな表示領域の平面ディスプレイを容易に作製できるようにすることを目的とする。

##### 【0007】

【課題を解決するための手段】この発明の平面ディスプレイは、少なくとも一部が透光性を有する表示面およびその表示面に対向配置する基板を有して内部が真空排気された外周器と、表示面と基板とを所定の間隔に離間するために、表示面の内側に所定の間隔で複数配置された前面リブ、および、前面リブと垂直に基板側に所定の間隔で複数配置された基板側リブと、表示面の前面リブにはさまれた領域に形成されて所定の電位が印加される蛍光体からなる発光部と、基板の基板側リブにはさまれた領域に所定の間隔を開けて複数配置されて所定の電位が印加される電子放出部とから構成され、その電子放出部は円筒状のグラファイトの層からなるカーボンナノチューブから構成されているようにした。このように構成したので、電子放出部と発光部との間に電位を印加すると、電子放出部を構成しているカーボンナノチューブの先端に高電界が集中してここより電子が引き出される。

##### 【0008】

【発明の実施の形態】以下この発明の実施の形態を図を参照して説明する。図1は、この発明の実施の形態における平面ディスプレイ (FED) の基本的な構成を示す断面図と平面図である。図1において、(a) は平面図 (c) のAA' 断面であり、(b) は平面図 (c) のBB' 断面である。また、平面図 (c) は、断面図

(a), (b)におけるXX'平面から下を見た状態を示している。この平面ディスプレイの構成に関して説明すると、まず、基板101上に、電極配線層102が形成され、この電極配線層102上に絶縁膜103が形成されている。

【0009】その、絶縁膜103上には、基板側リブ104が所定間隔で配置されている。そして、基板側リブ104ではさまれた絶縁膜103上に、所定の間隔を開けて電子放出部105が形成されている。この電子放出部105は、絶縁膜103に形成されたスルーホールを介して電極配線層102のいずれかの配線に接続している。また、透明な前面ガラス基板106が基板101に対向配置している。この前面ガラス基板106と基板101とは、基板側リブ104とこの基板側リブ104に直交して並べられている前面リブ107により、所定の距離離れて配置している。また、この前面ガラス基板106と基板101との間は、真空排気されている。

【0010】そして、面ガラス基板106の内側表面の前面リブ107にはさまれた領域に、蛍光体からなる発光部110がストライプ形状に形成され、その表面にはアルミニウム膜を蒸着することで形成されたメタルバック膜111が形成されている。その発光部110を構成する蛍光体としては、CRTなどに用いられる、4~10keVと高いエネルギーで加速した電子を衝突させることで発光する蛍光体を用いるようにすればよい。

【0011】なお、発光部110を構成する蛍光体には、蛍光表示管などで用いられる、10~150eVと低いエネルギーで加速した電子で発光する蛍光体を用いるようにしてもよい。この場合、メタルバック膜111を形成せずに、発光部110と前面ガラス基板106との間に透光性を有する透明電極を配置し、この透明電極により発光部110に電位を印加する構成とすればよい。

【0012】以上に説明した構成において、メタルバック膜111に正の電位が印加され、電極配線層102の所定の配線に負の電位を印加することで、その配線に接続している電子放出部105から電子が放出される。そして、その放出された電子が、その電子放出部105に対向する位置の発光部110部分に到達することにより、発光部110のその部分が発光することになる。そして、ストライプ状に複数配列された発光部110に対向し、図1(c)に示すように、複数の電子放出部105がマトリクス状に配列されて、平面ディスプレイを構成するようにしている。また、ある発光部110は赤に発光する蛍光体から構成し、その隣の発光部110は青に発光する蛍光体から構成し、その隣の発光部110は緑に発光する蛍光体から構成するようにすれば、カラー表示が可能な平面ディスプレイとすることができる。

【0013】そして、この実施の形態では、電子放出部105を、次に説明するように、カーボンナノチューブから構成するようにした。すなわち、カーボンナノチュ

ーブの集合体からなる長さ数 $\mu\text{m}$ から数mmの針形状の柱状グラファイトを、例えば、導電性接着剤などで所定領域に固定配置することで、電子放出部105を形成するようにした。なお、柱状グラファイトのペーストを用いた印刷によるパターン形成により、電子放出部105を形成するようにしてもよい。このとき、柱状グラファイトは、その長手方向がほぼ発光部110の方向に向いているようにした方がよい。

【0014】図2に示すように、柱状グラファイト201は、カーボンナノチューブ202がほぼ同一方向を向いて集合した構造体である。なお、この図2(a)は、柱状グラファイト121を途中で切った断面をみる斜視図であり、図2(b)がカーボンナノチューブ202の先端部を示している。その、カーボンナノチューブ202は、例えば図(b)に示すように、完全にグラファイト化して筒状をなし、その直径は4~50nm程度であり、その長さはミクロンオーダーである。そして、その先端部は五員環が入ることにより閉じている。なお、おれることで先端が閉じていない場合もある。そして、電子放出部においては、それぞれのカーボンナノチューブのその先端部より電子が放出されることになる。

【0015】このカーボンナノチューブの作製に関して簡単に説明すると、ヘリウムガス中で2本の炭素電極を1~2mm程度離れた状態で直流アーク放電を起こしたときに、陽極側の炭素が蒸発して陰極側の炭素電極先端に凝集した堆積物中に形成される。すなわち、炭素電極間のギャップを1mm程度に保った状態で、ヘリウム中で安定なアーク放電を持続させると、陽極の炭素電極の直径とほぼ同じ径をもつ円柱状の堆積物が、陰極先端に形成される。その円柱状の堆積物は、外側の固い殻と、その内側のもろくて黒い芯との2つの領域から構成されている。そして、内側の芯は、堆積物柱の長さ方向にのびた繊維状の組織をもっている。その繊維状の組織が、上述した柱状グラファイトであり、堆積物柱を切り出すことなどにより、柱状グラファイトを得ることができる。なお、外側の固い殻は、グラファイトの多結晶体である。

【0016】そして、その柱状グラファイトにおいて、カーボンナノチューブは、炭素の多面体微粒子(ナノポリヘドロン:nanopolyhedron)とともに、複数が集合している。そのカーボンナノチューブは、図2(b)では模式的に示したように、グラファイトの単層が円筒状に閉じた形状と、複数のグラファイトの層が入れ子構造的に積層し、それぞれのグラファイト層が円筒状に閉じた同軸多層構造となっている形状とがある。そして、それらの中心部分は、空洞となっている。

【0017】このように、この実施の形態によれば、電子放出部をカーボンナノチューブから構成し、これを電界放出型冷陰極電子源として用いるようにした。したがって、この実施の形態によれば、電子放出部は、例えば

印刷技術により形成可能であり、非常に安価に作製することが可能となる。例えば、上述した柱状グラファイトのペーストを、スクリーン印刷により基板上に所定のパターンに形成すれば、電子放出部が形成できる。また、電子放出部は、カーボンナノチューブが複数配置した状態となっているので、単位面積当たりに非常に多くの電子放出端が存在することになり、より多くの電子を放出させることが可能となり、高輝度を得ることができる。

#### 【0018】

【発明の効果】以上説明したように、この発明では、少なくとも一部が透光性を有する表示面およびその表示面に対向配置する基板を有して内部が真空排気された外周器と、表示面と基板とを所定の間隔に離間するために、表示面の内側に所定の間隔で複数配置された前面リブ、および、前面リブと垂直に基板側に所定の間隔で複数配置された基板側リブと、表示面の前面リブにはさまれた領域に形成されて所定の電位が印加される蛍光体からなる発光部と、基板の基板側リブにはさまれた領域に所定の間隔を開けて複数配置されて所定の電位が印加される電子放出部とから構成され、その電子放出部は円筒状のグラファイトの層からなるカーボンナノチューブから構成されているようにした。

【0019】このように構成したので、電子放出部と発光部との間に電位を印加すれば、電子放出部を構成して

いるカーボンナノチューブの先端に高電界が集中してここより電子を引き出すことができる。そして、電子放出部をカーボンナノチューブより構成するようにしたので、例えば印刷技術により形成可能であり、より広い面積にわたって、均一なパターン形成が可能であり、また、それを安価に作成することが可能となる。加えて、カーボンナノチューブは、非常に微細な構造体であるので、電子放出部に高密度に配置することが可能なので、単位面積当たりに非常に多くの電子放出端を存在することが可能となり、より多くの電子を放出させることができる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】 この発明の実施の形態における平面ディスプレイ（FED）の基本的な構成を示す断面図と平面図である。

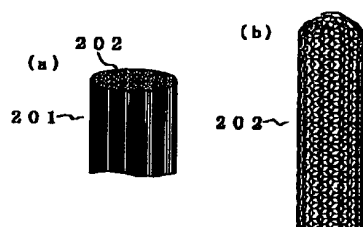
【図2】 カーボンナノチューブの形態を示す説明図である。

【図3】 従来よりある一般的なFEDの構成を示す断面図である。

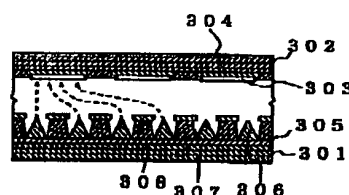
#### 【符号の説明】

101…基板、102…電極配線層、103…絶縁膜、104…基板側リブ、105…電子放出部、106…前面ガラス基板、107…前面リブ、110…発光部、111…メタルバック膜。

【図2】



【図3】



【図1】

